

各 位

会 社 名 株式会社小僧寿し
代表者名 代表取締役社長 森下 將典
(JASDAQ コード : 9 9 7 3)
問合せ先 管理本部長 笹田 耕之
(電話番号 03-5719-6226)

特別利益、特別損失の発生並びに連結業績予想の修正に関するお知らせ

この度当社において下記の通り特別利益および特別損失が発生いたしますので、その概要をお知らせするとともに、平成 28 年 11 月 14 日付「連結業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表致しました、平成 28 年 12 月期（平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日）の連結業績予想について、最近の業績の動向等を踏まえ、下記の通り修正いたしましたのでお知らせ致します。

記

1. 特別利益の計上について

1) 業務統合システムの継続使用に伴う契約解約損の戻入益 : 1 億 24 百万円

平成 27 年 2 月 16 日付「平成 26 年 12 月期通期連結業績予想と実績値との差異、営業外費用の発生および特別損失の発生について」にてお知らせいたしました、特別損失「賃貸借契約解約損」3 億 21 百万円につきまして、当初は平成 27 年度以降に業務統合システムの変更を予定していたことに伴い、同システム契約の解約損失を計上致しましたが、当社の経営環境や、現在の経営体制のもと今後の企業運営などを改めて精査した結果、引き続き現在の業務統合システムを使用することが最善であるとの結論に至りました。

この結果、平成 28 年 12 月期におきまして、当初計上していた契約解約損 3 億 21 百万円のうち、引き続き業務統合システムを使用することに伴う契約解約損の戻入益 1 億 24 百万円を特別利益として計上いたします。

2. 特別損失の計上について

1) 業務統合システムの開発に伴う仕掛中ソフトウェアの廃棄損 : 24 百万円

新システムの開発に伴い、当該システムの開発費用としてソフトウェアおよびライセンスの取得費用 24 百万円を計上しておりましたが、現在の業務統合システムを継続使用する事に伴い、当該費用を廃棄損として特別損失として計上いたします。

2) ラーメン店の撤退および店舗閉鎖に伴う撤退費用 : 74 百万円

ラーメン事業の撤退に伴う店舗閉鎖および持ち帰り寿し事業における不採算店の閉鎖に伴う撤退費用として74百万円を特別損失として計上いたします。

3) のれんの減損処理 : 1億13百万円

当社は当期において西日本事業の拡充を目的として、株式会社阪神茶月と株式会社スパイシークリエイトを子会社化した他、新規に参入した介護事業において株式会社けあらぶと介護サポートサービス株式会社を子会社化しました。前者の西日本事業においては、不採算店舗の処理やブランド再構築の取り組みにおいて事業収支が当初計画を大幅に下回ったことから改めて事業計画の見直しとのれんの再評価を行っております。

また後者の介護事業におきましても承継した施設における事業改善費用が大幅に増加した他、入居稼働率の低迷により、改めて事業計画の見直しとのれんの再評価を行いました。以上の結果、関係会社株式評価損として115百万円を特別損失に計上いたします。なお、個別決算で計上する特別損失は連結決算では消去され、連結決算において当該4社に係るのれんの未償却残高1億13百万円の減損処理を行い、減損損失として1億13百万円を特別損失に計上いたします。

4. 平成28年12月期連結業績予想の修正について

通期(累計)(平成28年1月1日～平成28年12月31日)の業績予想 (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益 (円銭)
前回発表予想(A)	5,540	31	44	40	1.34
今回修正予想(B)	5,461	△83	△73	△150	△5.07
増減額(B-A)	△79	△114	△117	△190	—
増減率(%)	△1.5%	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成27年12月期通期)	6,054	82	44	△72	△2.45

5. 修正理由について

連結売上高における業績予想修正の内訳は以下の通りです。

(1)直営事業	持ち帰り寿し事業	△65百万円 ・既存店売上が計画の96%で推移 ・おせち販売数等が計画の87%で推移
(2)連結子会社	株式会社阪神茶月 株式会社スパイシークリエイト	△20百万円 ・阪神茶月、スパイシークリエイトにおける既存店売上が計画の95%で推移

直営部門の持ち帰り寿し事業では、フェアが開催される週末の天候悪化に伴う客数の減少が影響し、第4四半期の売上高が計画の96%で推移致しました。また、当社が年度末に販売するおせち事業につきましても、競争激化に伴い販売数等が計画の87%に推移したため、直営部門の持ち帰り寿し事業における売上高は計画比65百万円の減収となりました。

また、当期に子会社化した株式会社阪神茶月および株式会社スパイシークリエイトの既存店売上が低調に推移したため、売上高は計画比20百万円の減収となりました。

損益における業績予想修正の内訳は以下の通りです。

営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益への乖離要因について

(1)直営事業	持ち帰り寿し事業	<p>△90 百万円 (営業利益)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存店売上およびおせち販売売上の減収 ・ 余剰在庫の償却および米等の原材料費の上昇 ・ 賃金上昇に伴う店舗従業員の人件費増加 ・ ラーメン業態を中心とした閉店予定店舗における資産除去債務の見直しによる原状回復費の増加
(2)連結子会社	株式会社阪神茶月 株式会社スパイシークリエイト 株式会社けあらぶ 介護サポートサービス株式会社	<p>△25 百万円 (営業利益)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 阪神茶月、スパイシークリエイトにおける既存店売上の減収 ・ 株式会社けあらぶ、介護サポートサービス株式会社における介護事業の開発費および経営改善費用

直営部門の持ち帰り寿し事業においては、既存店売上、おせち販売売上の減少、米等の原材料費の高騰、賃金上昇に伴う店舗従業員の人件費増加により減収を余儀なくされたこと、および、余剰在庫の償却を実施した点、ラーメン事業の完全撤退に伴い、当該閉店予定店舗、および持ち帰り寿し事業における閉店予定店舗の資産除去債務の見直しによる原状回復費の増加、などが業績予想と比較しての減益要因であります。

また、当期に連結子会社化した株式会社阪神茶月、株式会社スパイシークリエイトにおける既存店売上高が低調に推移した点、介護事業においてシステム関連費用および経営改善費用が発生している点、なども減益要因となっております。

上記に記載する要因により、営業利益は業績予想の 31 百万円から 83 百万円の営業損失、経常利益は業績予想の 44 百万円から 73 百万円の経常損失となりました。また、「1. 特別利益の計上について」および「2. 特別損失の計上について」に記載する特別利益および特別損失が発生致しますので、親会社株主に帰属する当期純利益は、40 百万円から 150 百万円の親会社株主に帰属する当期純損失となる見通しです。

※ 上記の予想は、現時点における経営環境において、入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があります。

以 上